

うぐいす

「すべての人びとに安らぎと希望を」



千厩病院ふれあい医療体験

—公開イベント & 地域医療懇談会—

平成25年7月24日(水)

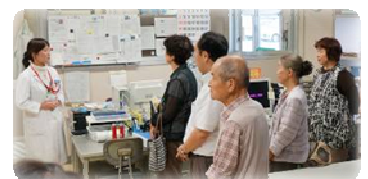
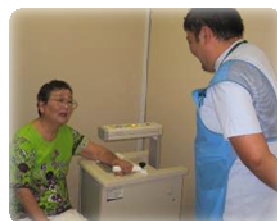
当日は、朝から少し湿度が高く曇りがちで蒸し暑さを感じるような天候でした。まだ冷房が入っていない大会議室で、午後1時30分から開催される公開イベントの準備をしていると、午後1時前には参加者が集まり始めました。聞いてみると「1時からの開始と思って来ました。」とのこと。もしかしたら、何かしら小学生の遠足に似た心の高ぶりがあったのかなと思わせるハプニングです。

というのも、今年度は、ボランティアの皆さんを対象に「ミニ検診」ともいえる骨塩定量検査及び尿一般検査を希望者全員に実施することとしたため、「どんな検査かしら。検査の結果はどうなるのかしら。」などと脳神経が反応して自然と早めの時間にセットされたのかなと思ったからです。

また、今年度は、“オープンホスピタルフェスティバル” 的雰囲気になれば楽しいイベントになるのではと考え、地域医療懇談会と昨年度初めて開催したバックヤードツアー（病院内部見学会）をドッキングさせ、前述の「ミニ検診」を併せて実施するよう企画しました。

さて、「ミニ検診」を受けられた方の内訳は、骨塩定量検査16名、尿一般検査4名でした。検査結果の報告書は検査終了後14時10分ごろから始まったバックヤードツアーの間に整理され、15時40分ごろから開催された地域医療懇談会の前に「ミニ検診」を受けられた皆さんに手渡されました。

昨年度に続き2回目のバックヤードツアーは16名参加されましたが、その満足度は高く、特に手術室は普段怖くて入りたくない場所ですが、事前に見学できて何となく安心したという声や、テレビに出てくるような手洗い後の腕を立てる行為はしませんとの看護師の説明の後、矢継ぎ早の質問が飛び交うなど関心の高さが表れていました。



平成21年4月に初めて開催されてから10回目となる地域医療懇談会は、44名の参加者を得て「千厩病院 看護科の紹介」と題して小田島総看護師長が説明した後、吉田院長が千厩病

院の現状や今後についてお話ししました。そして、懇談に移ると、患者等からの苦情も感謝についても玄関に掲示していることに感心した、花壇に綺麗な花が咲いて癒されたなどのお褒めの言葉をいただいたほか、看護必要度とはどういうことか、消費税増税の影響や対応はどうなっているか、病床利用率が高ければ黒字になるものか、など活発に質問されました。

最後に御来賓の県議会議員の所感を紹介させていただきますと、まずバックヤードツアーから参加いただいた佐々木朋和県議は、院内を見学して病院は究極のサービス業だと感じ学生にも見せたいとの感想をいただきました。同じく飯澤匡県議からは、東磐井地域の医療をどうするかということで歴代の千厩病院長が頑張られてきたことを地域で支援していきたいとの言葉をいただきました。

—事務局長 高橋 浩一—



岩手医科大学の医学生が実習を行いました



今年は、6月に2名の1年生が、チーム医療について理解を深めることを目標に、また、7月には2名の5年生が、地域医療の診療に参加することで専門性にとられない総合的な診療を学ぶことを目標に当院で実習を行いました。

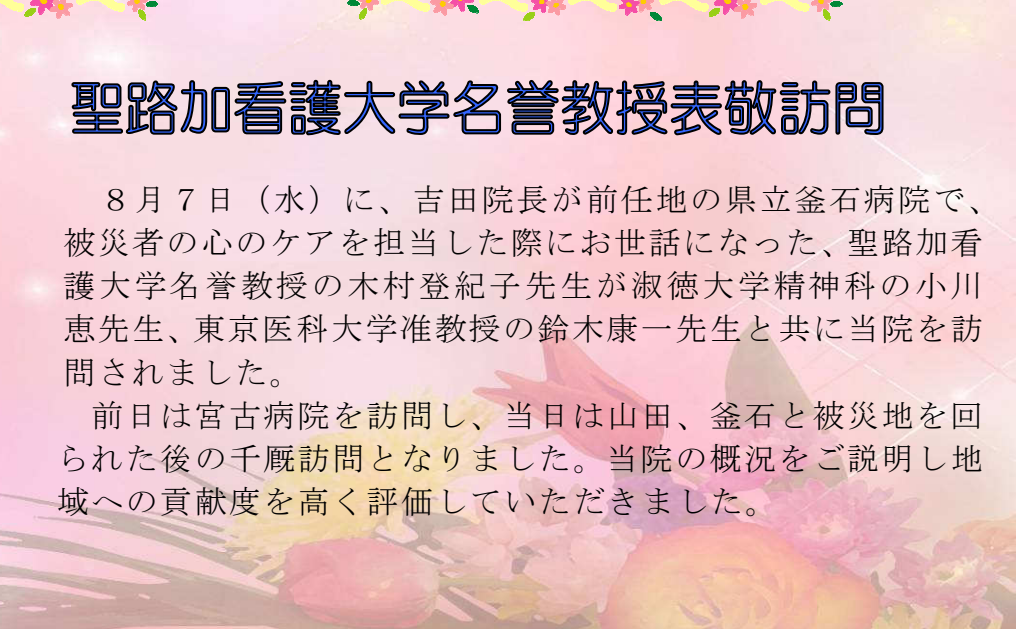
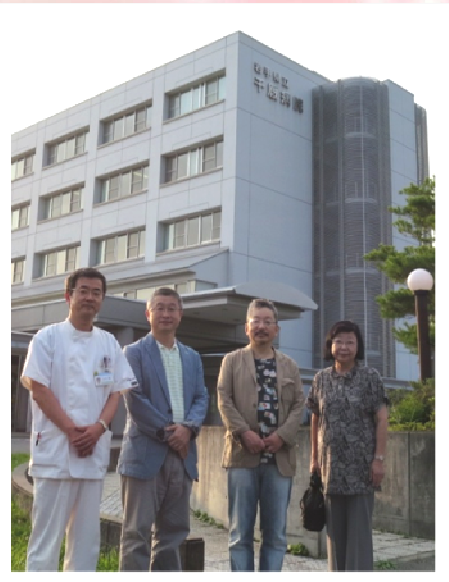
実習を終えた医学生から「大学では体験できないことを学び、充実した実習でした。」との感想が寄せられました。



聖路加看護大学名誉教授表敬訪問

8月7日（水）に、吉田院長が前任地の県立釜石病院で、被災者の心のケアを担当した際にお世話になった、聖路加看護大学名誉教授の木村登紀子先生が淑徳大学精神科の小川恵先生、東京医科大学准教授の鈴木康一先生と共に当院を訪問されました。

前日は宮古病院を訪問し、当日は山田、釜石と被災地を回られた後の千厩訪問となりました。当院の概況をご説明し地域への貢献度を高く評価していただきました。



回復期リハビリテーション病棟 オープン

平成 25 年 7 月 1 日より 5 階病棟は回復期リハビリテーション病棟となりました。

入院の方は、身体機能・言語の回復など必要とし自宅退院や社会復帰を目的とした両磐地区・宮城県北からの紹介の方です。

そのほかにも当院で急性期治療を終了し回復期リハビリ病棟に入棟します。

回復期リハビリ病棟を申し込むにあたってはリハビリ入院依頼連絡票を出していただき、その情報をもとに週 1 回木曜日、医師と看護師、医療社会事業士、地域連携室そしてリハビリスタッフで判定会議を開き受け入れを決めています。

対象は、脳血管障害・骨折の術後・肺炎や外科の術後の廃用症候群の患者さんです。発症後又は手術後 2 ヶ月以内の方で入棟後 90 日から 150 日以内のリハビリテーションにより日常生活動作の改善が認められる方です。

5 病棟の方針として、

- 1、私たちは患者さんが、早期に生活行動の再構築を図り、自立した生活（社会復帰）が送れるように支援します。
- 2、リハビリ総合実施計画書を元に、集中して多職種で連携して関わっていきます。



と掲げリハビリテーションプログラムを医師、看護師、リハビリスタッフがチームで作成しこれを基に集中的に行っています。

又、一ヶ月毎に、患者・家族と共にリハビリカンファレンスを行い目標を共有しています。自宅復帰率 60% を目指し関わっていきます。

朝の洗面から始まりトイレ、更衣・食堂への移動、食事、歯磨き、入浴、就寝まで、出来ることは見守り、出来ないところは援助しながら、出来るようになるよう患者様の意思を尊重し、意思を確認しながらケアを行っています。外出・外泊訓練を行い安心して家庭に戻れるように支援します。



土・日曜日は、入院によるストレス発散や気分転換。入院生活の活性化、意欲の向上。残存機能の再発見及び活用を目的に、患者様の希望を取り入れ、風船バレーボール・玉入れ・輪投げ・貼り絵など、「遊びリテーション」を行っています。



入院されてくる方が病気を受容でき、前向きにリハビリテーションに取り組み一つでも出来ることが増え、早期に社会復帰できるようにスタッフ一同患者様に寄り添って行きたいと思えます。

5 病棟 看護師長 千田京子



協働

千厩病院 総看護師長 小田島 淳子

はじめまして

4月に千厩病院に赴任いたしました小田島淳子です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、中央・紫波での勤務が長く、前任地の江刺病院では、2年勤務しておりました。

千厩病院は、初めての総看護師長としての勤務となりますが、早いもので4カ月が過ぎました。看護事務室の窓辺でセキレイが卵を温め、つい先日巣立って行きました。ホッコリとした心温まる風景です。ふと単身赴任のさびしさを忘れ、笑顔になる瞬間でもあります。

千厩病院の第一印象は、「お互いを思いやり、明るい挨拶が交わされ、職員が生き生きと仕事をしている職場」と感じました。これは、小松総看護師長さんをはじめ先輩方が築いてこられた職場活性の精神「フィッシュ哲学」が根付いていることと、なにより患者さんやご家族、地域の皆様と看護の現場がお互いに寄り添いながら「対話」することを、積極的に進めてこられたからと感じております。よい伝統を受け継ぎながら、次へのステップに向けて日々変化していく将来をみつめ、職員と共に一步一步進んでまいりたいと思います。

今年の千厩病院のキーワードは、「協働」です。辞書を引いてみると「共に協力して課題解決に向けた取り組みをする。目標を共有し共に力を合わせ活動する」とあります。「協働」を軸に「これまで」を振り返りながら、千厩病院の「これから」を考えてみました。

その1：多くのボランティアの皆様、高校生、地域の皆様の活動に心より感謝申し上げます。

毎日の総合案内や、毎月の病棟訪問、院内のアート空間。病院の玄関や中庭の花壇は、ボランティアの皆様が手入れをしてくださり、季節とともにパンジーからひまわり、朝顔、サルビアへと色とりどりのたくさんの花を咲かせています。入院している患者さん、ご家族、地域の皆様、そして働く職員が心和む「安らぎ」の場を創っていただいています。本当にありがとうございます。

その2：7月に病院機能が変化しました。

震災後大東病院の入院機能が失われてから休止していた、回復期リハビリテーション病棟が千厩病院で再開されました。脳卒中や骨折などの患者さんが、退院後の家庭での生活を見据え、機能回復に向けて訓練をします。「その人が自分らしく生きること」を尊重し、一人一人にあったプログラムで進めていきます。病院が地域と連携し、患者さんが「笑顔で退院」できるよう願い進めています。ここで始めた取り組みは、遊び、ゲームを取り入れたリハビリ、「遊びリハビリテーション」です。心が動くと体も動くといわれます。患者さんの心まで届くリハビリに取り組んでいきたいと思っています。

その3：感染管理認定看護師が誕生しました。

当院では、皮膚排泄ケア認定看護師、摂食・嚥下認定看護師に次ぐ誕生。岩手県では、質の高い医療を提供するために、特定分野の中で専門家として熟練した技術を提供し21分野 66人の認定看護師が活躍しています。病院内だけではなく、公民館などでの出前講座も行っておりますので、お気軽にお声がけください。

震災から2年が経過しましたが、沿岸部の医療を含めた復旧は遅れ気味です。今後は各々の持場で一步一步進めていくことが重要と考えます。当院でも岩手の再生と復活を意味する若草リボンを胸に、当院の理念「すべての人びとに安らぎと希望を」の実現に向けて、看護科ができることは何かを考え、皆様と「協働」し精一杯努力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。